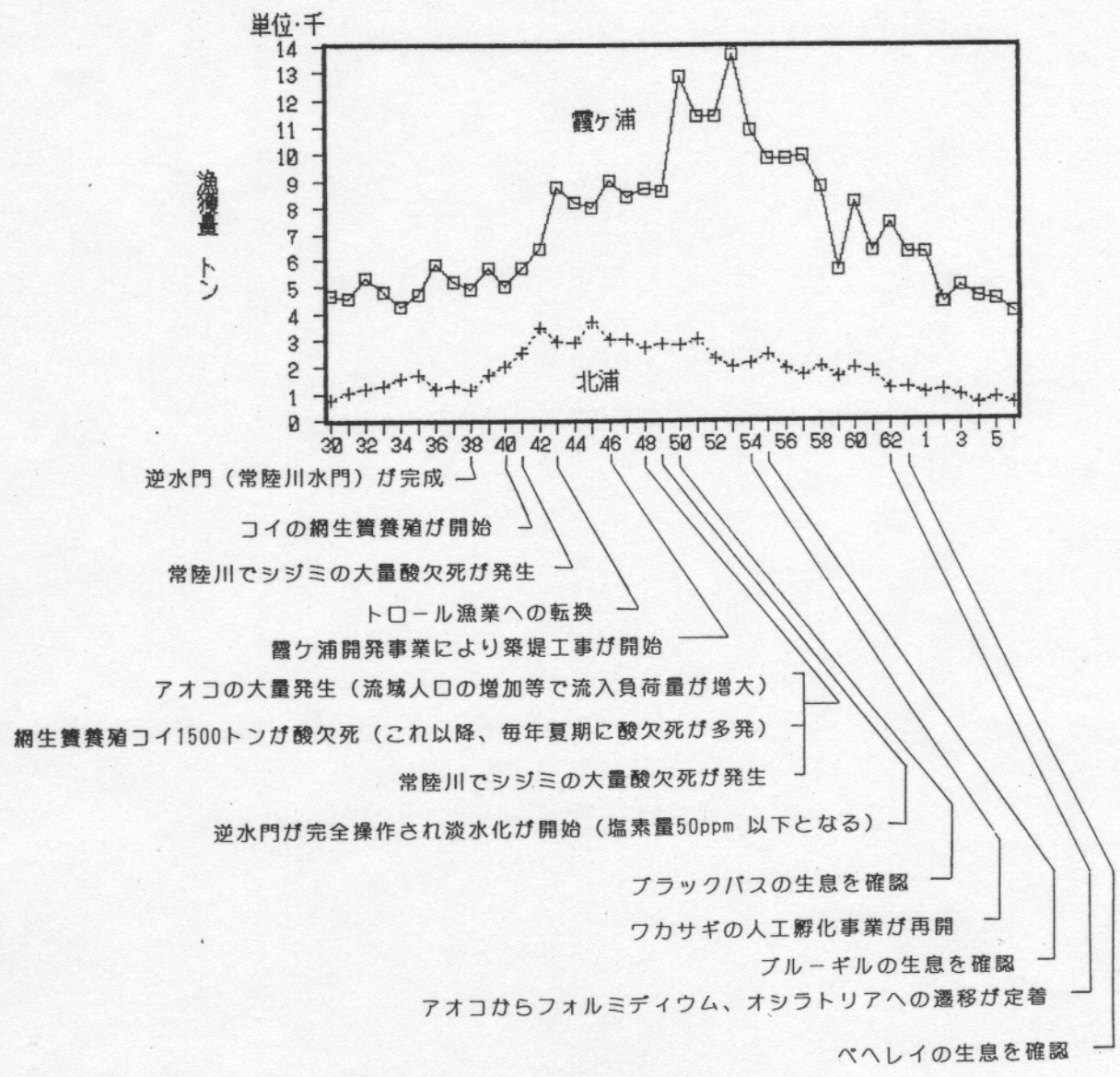


なぜ、漁獲量は減ったか - 2

その時、何が起こっていたか

「かわら版」No. 134で、近年の霞ヶ浦北浦における漁獲量の減少が、昭和50年（1975）頃からみられ始め、総漁獲量の約90%を占めているイサザアミ、ハゼ類、テナガエビ、コイ・フナ、ワカサギ・シラウオ等が、いずれも一様に減少していることを述べました。

漁獲量減少の原因については、いろいろの要因が考えられますので、ここではこの減少がみられた時期、霞ヶ浦北浦で、どのようなことが起こっていたのかを調べ、下図に示すことにしました。



図に示したように、この30年間に霞ヶ浦北浦では、大変大きな出来事が、次から次へと起こっていることがわかります。

水中に住んでいる魚は、これらの種々の事象に伴う、環境の変化による影響を、真っ先に受ける生き物です。漁獲量減少の原因が、なかなか解明できないのも、一つにはこれらのいろいろな要因が、複雑に絡んでいるためと思われます。

さて、次回からは個々の魚種について、その漁獲量の減少原因について、少し詳しく検討していきたいと思いますので、お待ちしております。